

右：周溝墓群（南から）

周溝墓4～6を中心に

左下：周溝墓4

埋葬施設出土ガラス玉

右下：周溝墓4

木棺墓（東から）



### 横井南原遺跡の概要

横井南原遺跡では、弥生時代後期前半、古代、近世後半の3時期の遺構を確認しました。まず、弥生時代の遺構は、周溝墓という溝をめぐらせた墓で、墓壙と棺の内法のサイズは、県下でも最大級の大きさを呈しています。また、副葬品として棺内の南側からガラス玉が出土しており、県下でガラス玉を副葬する最古級の事例と言えます。葬られた人は、貴重品（ガラス玉）を所持していることなどからも地域の有力者の墓と考えられます。

次に古代は、掘立柱建物の柱穴などが見つかると、また近世の遺構から当該期の遺物より多くの古代の須恵器が出土しました。このことから今回調査で発見できた以上の古代の時期の遺構があり、それらが近世に大規模に削平された可能性があります。また本遺跡から数百m南には、同時期と考えられる茶園窯跡や大坪窯跡があることから、窯業に関わった人物の居住域であった可能性も考えられます。

最後に、近世後半は縦横に溝が掘削されており、その内の何条かの溝は、現在のコンクリート畦畔とほぼ同じ位置にあります。現在の田畑の景観は近世後半(18世紀後半)に形作られ、現在へと踏襲している証拠といえます。またこの一帯の用水は、上手の夫婦池、鋳物師池などから供給を受けており、見つかった溝群も、同様のため池から水を運ぶための水路であったと考えられます。

なお、本遺跡の調査は10月まで継続する予定です。新しい発見がありましたら、埋蔵文化財センターのHPで公開します。

香川県埋蔵文化財センター  
〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001-4

TEL 0877-48-2191 FAX 0877-48-3249  
メール maibun@pref.kagawa.lg.jp

平成29年8月6日(日)

高松市香南町横井

## よこいなんばらいせき 横井南原遺跡

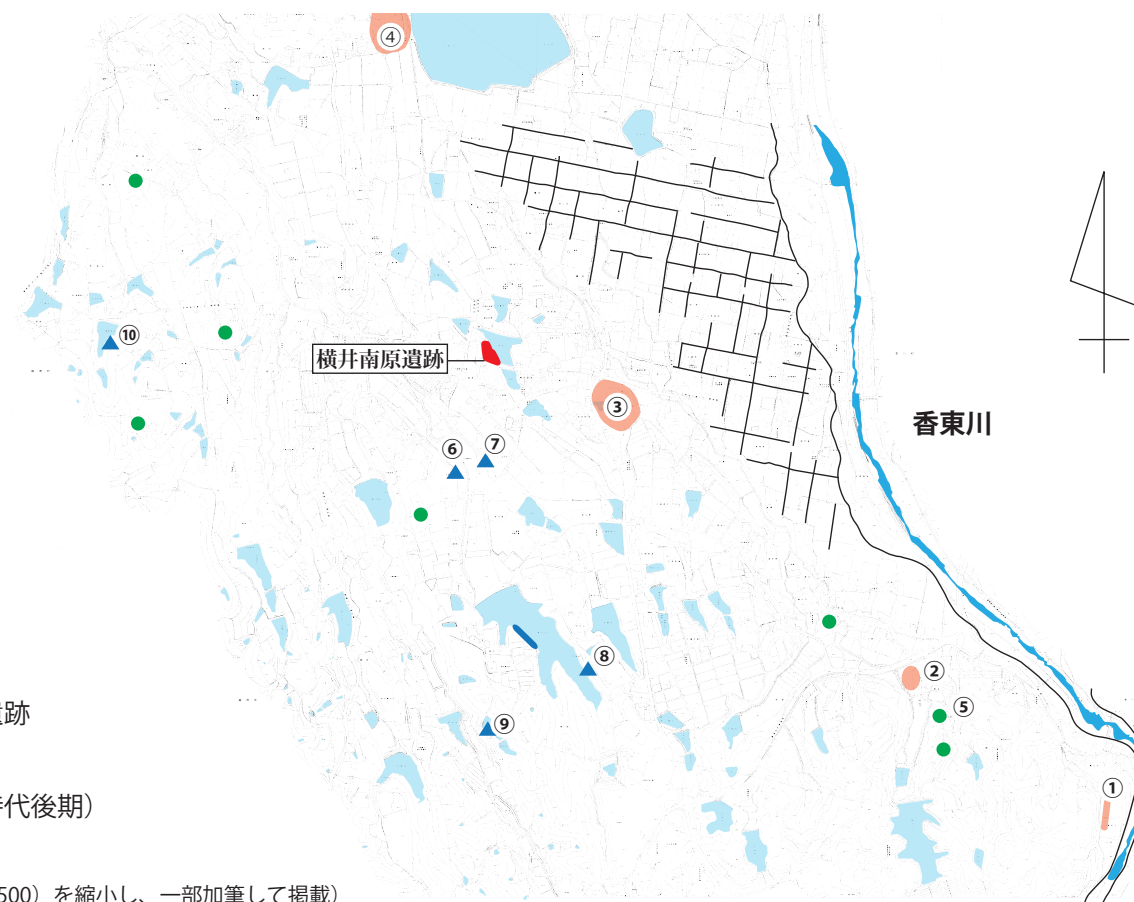
### はじめに

横井南原遺跡は、高松市香南町横井南原に所在する遺跡で、県道円座香南線建設に伴って発掘調査を実施しています。周囲の地形は、八手状に入り組んだ丘陵が南から北へと派生し、その一つの丘陵の東へと下る緩やかな斜面地に遺跡は立地しています。現在までの調査で、弥生時代後期(約1900年前)、古代(約1200年前)、近世後期(約250年前)の3時期の遺構を確認しています。

横井南原遺跡の周辺には今までの調査で、弥生時代から中世にかけての遺跡が見つかっています。周辺の遺跡を見てみると、弥生時代では、多数の竪穴建物や朱の精製容器も見つかった岡清水遺跡(香南町岡)や、弥生土器が採集されている冠嬰神社遺跡、小田池西遺跡、奥谷遺跡があります。また、古墳時代後期(約1500年前)には多数の古墳が築かれ、城所山2号墳は調査の後に整備され、現在見学することができます。

古代では本遺跡南側の音谷池周辺などで、丘陵斜面の地形の高低差を利用して登り窯が造られ、須恵器の生産が行われており、横井周辺から西に窯跡が点在しています。また、中世から近世にかけて、現在の地域の景観の主体となっているため池が、ハの字状に丘陵が開く場所をせき止めて、造られています。

### 周囲の遺跡の分布



- ：弥生時代の遺跡
- ▲：窯跡
- ：古墳(古墳時代後期)

高松市都市計画図(1/2500)を縮小し、一部加筆して掲載

- 1、岡清水遺跡 2、奥谷遺跡 3、冠嬰神社遺跡 4、小田池西遺跡 5、城所山2号墳
- 6、大坪窯跡 7、茶園窯跡 8、音谷池窯跡 9、池谷窯跡 10、新池窯跡



